TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル 宗教的な間違い
ガラテヤ人への手紙第４章

2023年２月11日&12日
ジェシー・セザリオ 牧師

挨拶
今日ご参加している皆さん、TBC ウエストトウキョウ、TBC 三郷、スバ・バプティスト教会、トンガ・バプティスト教会の皆さん、おはようございます。

主であり救い主であるイエス・イリストの恵みが、今日皆さんと共にありますように。

はじめに
今日はガラテヤ人への手紙第４章を見ていきましょう。この手紙は、パウロが聖霊に導かれてガラテヤの教会と今日の私たちに宛てに書いたものです。

ガラテヤ人への手紙第 ４ 章で、パウロは福音の下で一致を保つことを教えています。全ての者は暗闇の中にいましたが、クリスチャンは等しくキリストの中にいて、信仰のみによって義とされたのです。

エフェソの信徒への手紙 ２ 章 ８－９ 節
あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、誰も誇ることがないためです。

続けて、パウロは、信仰に何か、例えば宗教的な慣習や、働き、良い行い、またはルールに従うこと等を付け加えることは、本当の福音ではないと強調しています。

重要なポイント：クリスチャンとして救われるために何かを行うことは、それが悪いことであれ良いことであれ、悪魔がやるように福音のメッセージを捻じ曲げてしまうことなのです。

行いを命じられている場合、それはもはや贈り物ではなく、束縛であり、法の下での呪いです。そうなると、自由と喜びが失われます。

真の福音の中にある自由と喜びを失わない方法をご一緒に学びましょう。

・問題の等しさ ガラテヤの信徒への手紙 ４ 章 １ 節－８ 節
つまり、こういうことです。相続人が未成年であるうちは、全財産の所有者であっても奴隷と何ら違いはなく、父親の定めた時期まで後見人や管理人の下にいます。同様に、私たちも未成年であったときには、この世のもろもろの霊力に奴隷として仕えていました。しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から生まれた者、律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の下にある者を贖い出し、私たちに子としての身分を授けるためでした。あなたがたが子であるゆえに、神は「アッバ、父よ」と呼び求める御子の霊を、私たちの心に送ってくださったのです。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神による相続人でもあるのです。しかし、神を知らなかった当時、あなたがたは、本来神ではない神々の奴隷となっていました。

パウロは相続がどのように行われるのか、また実父の子と奴隷の子でどのように違うのか説明しています。

子どもたちが未成年であるうちは、実父の子であっても全財産に対して何らの権利を持っていません。その時が来た時に限り、全財産はその子に譲渡されることになるのです。今はまだ父が全財産を持っています。

これらの子どもたちは誰を表しているのでしょうか？実父の子は、キリストを表します。奴隷はキリスト以外の人々、つまり私やあなたを表しています。奴隷の子どもたちは、通常の方法ではないかたちで今や子どもとなったので、財産の相続を待つという恩恵を受けています。

ここでパウロが何を言いたいのか、少し考えてみてください。 彼はユダヤ人と異邦人を同じカテゴリーに入れました。これは、ユダヤ人の考えと異なります。

パウロはローマの信徒への手紙 ９ 章 ３－４ 節で次のように言っています。「私自身、きょうだいたち、つまり肉による同胞のためなら、キリストから離され、呪われた者となってもよいとさえ思っています。彼らはイスラエル人です。子としての身分、栄光、契約、律法、礼拝、約束は彼らのものです。」

ここから、キリストに出会う前、パウロがユダヤ人としてどのように感じていたか分かるでしょう。パウロはユダヤ人的な民族主義の考えによって、ユダヤ人が他の者たちよりも優れていると感じていたのです。

ユダヤ人にとって、ユダヤ人以外の者は、律法の下では汚れていて、不法を行う者で、彼らから分離しなければならない存在だったのです。ユダヤ人ではない私たちはサタンの子どもと考える者もいます。

サタンのやり方は、ストーリーに紛れ込んで、私たちに神が計画してくださっているやり方を疑わせるのです。ヨブのストーリーにサタンの存在目的が垣間見えます。

サタンという名前はどういう意味か知っていますか？訴える者、攻撃する者という意味です。彼の仕事は、人々を見渡して、神の律法の下で誰が神の栄光を受けられないかを見抜くことです。

ヨブ記第 １ 章 ７－８ 節 主はサタンに言われた。「あなたはどこから来たのか。」サタンは主に答えた。「地を巡り、歩き回っていました。」主はサタンに言われた。「あなたは私の僕ヨブに心を留めたか。地上には彼ほど完全で、正しく、神を畏れ、悪を遠ざけている者はいない。」

ヨブについて少し触れておきましょう。ヨブのストーリーは、アブラハムよりも遡った時代だと考えられています。のみならず、ヨブは異邦人です。神により選別され、神により守られ、神により祝福された異邦人です。

神は異邦人に対してもそのようになさるのです。しかしサタンは、神がヨブを選別しなければ神の理想から外れてしまうだろうとヨブを攻撃するのです。サタンは、ヨブの行いによる祝福が取り除かれた時に、ヨブがサタンを恐れ、神を避けると思ったのです。

昔のパウロと彼と同時代のユダヤ人の心は、彼らが奴隷ではなアブラハムの子孫であるという考えに固執していました。ヨハネ ８ 章にこれを見ることができます。

ヨハネによる福音書 ８ 章 ３３ 節 彼らは言った。「私たちはアブラハムの子孫です。今まで誰かの奴隷になったことはありません。『あなたがたは自由になる』とどうして言われるのですか。」 ３９ 節「私たちの父はアブラハムです」

しかし、キリストは彼らを正しました。 ４４：「あなたがたは、悪魔である父から出た者であって」

神にとって、アブラハムの子どもか異邦人であるかは問題ではありません。聖書は、人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっている（ローマの信徒への手紙 ３ 章 ２３ 節）と言っています。
パウロは福音において、私たちはまず同じであるということ知っています。なぜなら、私たちは皆、神の律法を満たしていない者だからです。

したがって、イエスが「アブラハムが生まれる前から、『私はある。』」といった時、イエスは、アブラハムを遡ったばかりでなく、ヨブ、アダム、また攻撃者であるサタンまでをも遡って言ったのです。

イエスは神の子として私たちの養子縁組の先駆者であり作者です。この養子縁組はすべての人に開かれています。神は全ての人間が救われ、真理に至ることを望んでおられます。

誰が福音を必要としているか？

東京バプティスト教会の皆さんと福音をシェアした皆さん、全ての人が福音を必要としていることを自覚しなくてはなりません。私たちは、誰に対しても、どこででも、喜んで聞く人に対して福音を伝えなければなりません。なぜなら全ての者が罪の奴隷だからです！皆、鎖を断ち切る必要があります。

「中国に行って中国人に福音を伝えるつもりだ。でも、そこに住んでいる他の人種の人たちには伝えないつもりだ。」と言うのは理にかなっているでしょうか？パウロは彼の旅でこのようにしたでしょうか？あなたはガラテヤ人ではないので、福音は届けません！

これはパウロの警告です。私たちはキリストを求める人々とクリスチャンを区別せず見なければなりません。

ガラテヤの信徒への手紙 3 章 28－29 節 ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。あなたがたがキリストのものであるなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

TBC は世界中から集まったクリスチャンの集まりです。福音によって救われた世界中からの人々です。

あらゆる機会に、私たちが持っている希望を皆と分かち合いましょう。誰に対してでもです。特定のグループや国籍、社会的地位に縛られないようにしましょう。誰もが福音を必要としています！

あなたの隣にいる人に、ためらうことなく、区別することなく福音をシェアしましょう。人々は罪の束縛から解放される必要があるのです。

これらすべては紙面上では素晴らしく聞こえます。しかし私たちは、パウロが話題にしているような区別をしてしまう傾向があるのです。

例

例を挙げましょう。もし、あなたが自分自身ではなく他の人を裕福にする知恵や方法を知っていたら、それを伝えますか？

あなたの同僚に対してはどうでしょう？彼らが昇進できるような情報を伝えるでしょうか？もしかしたら、偉くなってあなたの上司のさらにその上の上司になったり、副社長になって駐車場付きの大きなオフィスを持つようになるかもしれません。このようなやり方で彼らを助けますか？なぜ私たちは嫉妬してしまうのでしょうか？

福音は、誰かを裕福にするアドバイスよりも価値があるものです。パウロは言っています。「この恵みは、すべての聖なる者のうちで最も小さな者である私に与えられました。キリストの計り知れない富を異邦人に告げ知らせ（エフェソの信徒への手紙 3 章 8 節）」

パウロがいつも避けたいと思っていた人々、価値がなく、ふさわしくないと思っていた人々、つまり異邦人に対してでさえ、パウロは彼らの父になりました。恵みはすべての人々が受け取ることのできる無償の贈り物です。

私たちが持っている福音と喜びを分かち合わないのはなぜですか？

私たちの嫉妬心や、価値がなく相応しくない人を見て、彼らの陰になることを怯えているためではないことを願います。これは、イエスが悪魔の子と呼んだパリサイ人たちと同じ感じ方です。

一方で、その背景には別の理由が潜んでいるに違いありません。私たちは次のように感じているのではないでしょうか。「まあ、このすべての恵みは良いでしょう。つまり、クリスチャンであることは良いことです。教会には、特典と見どころがありますが、ものすごく素晴らしいという程ではありません。」

YouTube でニュースを見るとき、動画が共有された回数を確認して、その動画が良い動画かを判断することがあります。先日新しいニュース動画を見ましたが、たった数時間で 100 万回再生されていました。「ああ、これは見る価値があるに違いない」と思い見ましたが、結局大したものではありませんでした。タイトルからすでにどんなストーリーかわかっていたのです。この指導者は自分が何をしているのか分かっておらず、アメリカ人は 2024 年までそれに付き合わなければなりません。いつものお馴染みの内容のニュースでした。ニュースとして価値があるかもしれませんが、私はそれを共有したいとはあまり思えませんでした。

あなたはキリスト教に対して同じように感じていますか？いつもの、お馴染みの古臭い宗教だと？

パウロはガラテヤ人と私たちが過ちを避ける方法を次のように示しています。あなたの信仰を後退させないでください。

・無意味な努力　ガラテヤの信徒への手紙 4 章 8 節－12 節

しかし、神を知らなかった当時、あなたがたは、本来神ではない神々の奴隷となっていました。だが、今や神を知ったのに、いや、神に知られたのに、どうして、再び奴隷になることを望んで、あの無力で貧弱なもろもろの霊力に逆戻りするのですか。あなたがたは、日や月や季節や年などを守っています。あなたがたのために労苦してきたことが無駄になったのではないかと、あなたがたのことが心配です。きょうだいたち、お願いです。私もあなたがたのようになったのですから、あなたがたも私のようになってください。

パウロは、この世の神々を礼拝することは、まことの生ける神への礼拝と対立すると述べています。彼は 9 節で違いをはっきりと述べています。9 節 「だが、今や神を知ったのに、いや、神に知られたのに」

このように、キリスト教は、この世の宗教とは正反対なのです。この世の宗教では、信心深くなるためには、神を知るために努力する必要があると教えます。キリスト教のメッセージは、私たちの神がイエス・キリストのうちに働かれたので、私たちはキリストによって神を知ることができるのです。

イエスこそが業を成し遂げたのです。彼によって完璧に完全に達成されました。

でも、私に見えるのは、私たちが今キリストにある人生において何をして、何をしないかということです。もしかしたら、あなたにもそう見えているかもしれません。

しかし、パウロが彼自身について語っていることに注目してください。彼はキリストにあって自由です！ パウロは、皮肉にも彼が今や異教徒のように律法に縛られずに生きていることを示しています。一方で、異教徒がかつてのパウロのように宗教に縛られ呪われているのです。

マタイによる福音書 6 章でイエスはこう述べています。「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。」（1 節）、また「あなたが祈るときは、奥の部屋に入って戸を閉め、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。」（6 節）、断食するときには、偽善者のように暗い顔つきをしてはならない。彼らは、断食しているのが人に見えるように」（16 節）

どうすれば他の人にあなたの行動を見られないようにしながら教えを実践できるのでしょう？答えは、あなたにはできないし、そうするべきでもないです。何もするなということではありません。つまり、それは不可能なのです。なぜならイエスキリストにある真の信仰とは、あなたの行動によるのでなく、聖霊の中で生きる信仰によるからです。

クリスチャンとして、パウロはガラテヤ人への手紙の 5 章でこう言っています「私たちは霊によって生きているのですから、霊によってまた進もうではありませんか。」聖霊によって生まれるのでなければ、聖霊によって歩むことはできません。

イエスによれば、プライドがある場合は、人前で良い行いをしないほうが良いのです。そのため、イエスは私たちに物事を隠れて行うように言われたのです。良い行いはあなたを良く見せることができます。 特に、聖霊が働いておらず、不信の罪に対して信仰がないという深刻な問題がある場合はなおさらです。

その逆もまた真実です。信仰を持って何らの行為もしなくてもクリスチャンでいることができます。

信じられませんか？ 十字架の上の強盗を見てください。動けないのにクリスチャンになる人はどうですか？ 彼らが救われることはありませんか？ もちろん違います。

パウロはガラテヤ人を信徒ではないとは呼んでいませんが、彼らが本当に救いの信仰を持っているかどうか疑問に思っていました。注意してください。彼らが宗教的な行いをしていなかったからではなく、宗教的にふるまっていたからパウロは彼らの信仰を疑ったのです。

キリストはマタイによる福音書 5 章で 16 節次のように言っています。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである。」

ここで、注意しなければならないのは、立派な行いをすることで、良く見られるのはあなたではなく、光の御父です。御父が栄光を受けるのです。

プライドは、律法主義に陥るきっかけとなります。本来の姿ではないあなたを見せるためです。光の子になりすますことができるのです。

嘘の父、サタンが光の天使を装っていることを忘れないでください。自分が立派な行いをしたとプライドに生きるときと同じ方法です。

適用

誰でも良い行いができますが、全てのクリスチャンは今でも罪を犯しています。私たちは信仰を見るために外見の行いを見ません。自分の内側をしっかりと調べて、自分の成し遂げたことに希望を抱くのではなく、自分の根底にあるものに希望を置くべきであることを確認してください。

これは、自分の信仰や信仰に生きる、とはどういう意味かについて、宗教的に誤解するように仕向ける誤りです。誤解しないでください。私たちは恵みによって、信仰を通して救われます。あなたの行いによってではありません。

・律法の上にあるもの ガラテヤの信徒への手紙 4 章 19 節－21 節

私の子どもたち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、私は、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。できることなら、私は今、あなたがたのもとにいて、語調を変えて話せたらと思います。あなたがたのことで途方に暮れているからです。律法の下にいたいと願う人たち、私に答えてください。あなたがたは律法に耳を傾けないのですか。

ここでの危険は、人々が救いを失うことではありません。ここでの危険は、彼らの証人と彼らの教会が、一連の規則に従うだけの、キリストのいない、聖霊のいない、恵みのない宗教グループに変わることです。これは、働きとキリストへの信仰を同一視するものであり、悪魔のような信仰と同じです。

実例

クリスチャンになる前、東京で一緒にテニスをしていた友だちがいました。ある日、彼は、ガールフレンドと一緒に勉強するために別の国に引っ越すつもりだと言いました。その頃、私は救われていました。

そこで「あなたがその国いる間に、教会に行ってみてよ。」と言いました。必ず彼らの助けになると確信していました。ほどなくして、彼と彼のガールフレンドが礼拝に参加し始めたと聞きました。

しばらくして彼らに連絡してみましたが、彼らは教会でとても辛い思いをしていると知りました。理由ですか？教会のある人が、信仰よりも、彼とガールフレンドが一緒に生活していることを危惧したからです。彼と彼女の関係は冷え込み、別れてしまいました。それだけでなく、彼らはクリスチャンになりませんでした。

私はこのことで本当に悲しい思いをしました。教会の人々が物事の順序を間違い、彼らがキリストを知る前にルールを押し付けたばかりでなく、私はとても親しい友だちを 2 人失いました。

TBC が信仰を持っていない人に聖書カウンセリングを行わない理由はこのためです。クリスチャンではない人を弟子にすることはできません。また、誰であれ良い行いを強いられるべきではありません。これは律法主義的な行動主義で、約束の中に生きているとは言えません。神の目には行動主義は価値がなく、罪深いものであり、真の愛ではありません。

パウロは、ガラテヤの信徒への手紙 1 章 9 節でこう言っています「誰であれ、あなたがたが受け取った福音に反することをあなたがたに告げ知らせるなら、その者は呪われるべきです。」これは深刻な問題です。なぜなら霊的に非常に深い問題だからです。

束縛から自由になった私たちは、再び束縛に陥る、もしくは人々を束縛していますか？ もしそうなら、これは別の福音による信仰です。これが私たちの姿であるなら、破滅の危機に瀕しています！

クリスチャンになるために、聖霊に良い行いを認めてもらい、神によって聖化されるべきだと主張するなら、私たちは自分たちの新興宗教を作っているのです。

サタンのように教会内で人を責める者にならないようにしましょう！ その代わり、愛で結ばれた息子、娘として、恐れることなく、真の父を「アッバ！ 父よ！」と呼び求めましょう。

ヘブライ人への手紙/ 10 章 互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣って集会をやめたりせず、かえって励まし合いましょう。かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

喜びがないと感じていますか？信仰による恵みで約束されたように恐れずに自由に生きる時、キリストと、またお互いの関係の中にある喜びを経験するでしょう。

これが、私たちが集まることを止めない理由です。私たちは豊かさを分け合い、お互いを励まし合う必要があるのです。フェローシップの本質とはこのようなものです。

TBC でとても健康的なスモール グループは、今でも一緒に集まり、一緒に食事をし、互いに励まし合っています。これは使徒言行録と新約聖書のその他の箇所に書かれている、健康的なクリスチャンの姿です。

・独立記念日 ガラテヤの信徒への手紙 4 章 24－26 節、28－31 節

24－26 節 …二人の女は二つの契約を表しています。一人はシナイ山から出て、奴隷となる子を産みます。これがハガルです。このハガルは、アラビアではシナイ山のことで、ちょうど今のエルサレムに当たります。エルサレムは、その子どもたちと共に奴隷となっているからです。他方、天のエルサレムは自由な身の女であり、私たちの母です。

28－31 節

きょうだいたち、あなたがたはイサクと同じように約束の子どもです。しかし、当時、肉によって生まれた者が霊によって生まれた者を迫害したように、今も状況は同じです。しかし、聖書は何と言っているでしょう。「女奴隷とその子を追い出せ。女奴隷の子は、断じて自由な身の女の子と一緒に相続をしてはならない」とあります。それゆえ、きょうだいたち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由な身の女の子どもなのです。

パウロは最後の例で 2 人の子どもについて話しています。一人は肉によって生まれます。肉とは、私たちが住んでいる腐敗したサタンの世界と同じことを表しており、律法の下に生まれたもののことを言います。

これが、彼らの故郷が地上のエルサレムであり、律法者であるモーセの山であるシナイ山である理由です。

もう一人の子どもは約束によって生まれます。つまり、御霊によって生まれた子どもです。彼らの故郷は、シオンの山の天のエルサレムであり、生ける神の都である天のエルサレムです。(ヘブライ人への手紙 12:22)

あなたはキリストを信じる者として、ここに自由を見いだします。このことを頭に入れておく必要があります。真実であり、あなたを自由にして、喜びをもたらすものだからです。あなたはこの世のものではありません。

私はこの世のものではありません！このことを念頭に置いて、この世で生活してください。

キリストの中に生きる時、あなたは「私は在る」と仰る神の中にいて、永遠の命を持っています。ヘブライ人への手紙第 1 章によると、今では神が創造された天使(悪い天使と良い天使)たちよりも優れています。

イエスはヨハネによる福音書第 17 章 15－17 節、20－21 節で次のように言っています。私がお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。私が世から出た者でないよう

に、彼らも世から出た者ではありません。真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの言葉は真理です。

また、彼らについてだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々についても、お願いします。父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。

これが、約束による信仰を持つ私たちの本当の姿です。このように、あなたはこの世のものではないので、律法も肉も悪魔もあなたを支配することはありません。

そして、キリストご自身が、あなたがサタンから守られるように、あなたのために祈っておられます。他の誰かが、あなたの行為(やったこと、やらなかったこと)によって、神の子供ではないと主張することはできません。肉のうちに、束縛のうちに生きようとする考えを捨て去ってください。それは間違っています。

その代わりに、信仰により天に生まれた家族として、この約束をしっかりと握って、御霊にあって喜びに満ちて生きてください。

招待

キリストは、律法の呪いの下にある私たちの罪の罰を取り除くことによって救いを成し遂げました。彼は御父に完全に従順に生きることによって救いを成し遂げました。これは私たちにはだれもできないことです。生涯罪を犯していないにも関わらず、キリストは世の罪のために罰せられました。十字架で殺され、十字架で死に、三日目によみがえりました。

これは、御霊を通して生まれるという超自然的な手段によって、私たちが神の子どもとなるためでした。

あなたが御霊によって生まれ変わり、救いを受けたいと思うなら、イエス・キリストを信じてください。イエス・キリストは今ここに存在し、過去に存在しており、そしてこれからも永遠に存在されるお方です。そしてあなたはキリストと共に支配するのです。

テモテへの手紙二 2章 11−13 節
私たちは、この方と共に死んだのなら／この方と共に生きるようになる。
耐え忍ぶなら／この方と共に支配するようになる。
私たちが否むなら／この方も私たちを否まれる。
私たちが真実でなくても／この方は常に真実であられる。/この方にはご自身を／否むことはできないからである。」

祈りましょう。

ジェシー・セザリオ
東京バプティスト教会
2023年2月11−12日

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg0723jp

★クラス 401
ミッションの発見
2月19日(日)13:00〜17:00
★クラス 101
教会員になるためのクラス
2月26日(日)13:00〜17:00

クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu